

第14回大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議  
議事要旨

1. 日時：平成29年7月11日（火）15:00～17:00
2. 場所：国立情報学研究所 12階会議室
3. 出席者：

（委員館）

喜連川所長，漆谷学術基盤推進部長，江川学術基盤推進部次長（以上，国立情報学研究所），久留島館長，高橋事務部長（以上，東京大学附属図書館），西川館長，岡部学術情報部長（以上，筑波大学附属図書館），浅見学務・教務部学術情報課長（横浜市立大学学術情報センター），沼倉館長（大阪府立大学学術情報センター），深澤館長，荘司事務部長（以上，早稲田大学図書館），風間事務長（慶應義塾大学メディアセンター本部）

（陪席）

市古事務長・大学図書館コンソーシアム連合運営委員会委員長（慶應義塾大学三田メディアセンター），小山教授・これからの学術情報システム構築検討委員会委員長（中央大学文学部），呑海教授・これからの学術情報システム構築検討委員会委員（筑波大学図書館情報メディア系），丸山学術基盤整備室長，大園学術基盤整備室大学図書館係長（以上，文部科学省研究振興局参事官（情報担当）付），熊淵総務課長，細川情報管理課長（以上，東京大学附属図書館），奥村情報企画課長（筑波大学附属図書館），本間総務課長（早稲田大学図書館），松本課長（慶應義塾大学メディアセンター本部），大向准教授，小野学術コンテンツ課長，小陳図書館連携・協力室長，吉田学術コンテンツ課副課長，服部学術コンテンツ課支援チーム係長，片岡学術コンテンツ課学術コンテンツ整備チーム係長，阪口学術コンテンツ課学術コンテンツ整備チーム係長，新妻学術コンテンツ課学術コンテンツ整備チーム係長，上村学術コンテンツ課研究成果整備チーム係長，田口学術コンテンツ課研究成果整備チーム係長，船山図書館連携・協力室係長（以上，国立情報学研究所）

4. トピックレクチャー

議事に先立ち，筑波大学・呑海教授より，超高齢社会と図書館についてレクチャーがあり，以下の意見交換があり，好評を博した。

- 1 公共図書館ではなく大学図書館でできることは何か。
- 2 これから認知症の利用者が増えることが予想される。職員が認知症につ

いての知識を持っていれば，トラブルを減らすことができる。

- 1 人型ロボット（Pepper）と高齢者の親和性はどうなのか？
  - 実験結果から親和性は高いのではないと思われる。公共図書館で高齢者向けの Pepper を活用したイベントを実施した際，高齢者から Pepper への話しかけが多くみられた。また，Pepper を介した世代間交流などが考えられる。
- 1 高齢者へ図書館ニーズに関するインタビュー調査を実施したところ，何かして欲しいのではなく，図書館で，あるいは図書館とともに「何かしたい」というニーズがあることが明らかになった。
- 1 図書館が高齢者サービスを考える時には，医療や福祉行政等の他領域との連携が不可欠である。その際に図書館外の方に，図書館の役割や意義を適切に説明する必要がある。
- 1 たいへん新鮮な視点を得ることができた。

## 5. 議事：

（報告事項）

### （1）前回議事要旨案について

国立情報学研究所（以下，NII）喜連川委員長より，前回議事要旨は既に確定済みである旨の確認があった。

（報告・審議事項）

### （2）大学図書館コンソーシアム（JUSTICE）の活動について

NII・小陳室長より，資料2に基づいて報告があり，以下の意見交換があった。

- 1 APC 支払推定額が2012年から2014年の2年で2倍になっている。このような現状は，研究者にはまだ認識されていないのではないか。
  - 日本学術会議主催学術フォーラムでの NII・安達副所長の講演により，参加者にはインパクトを与えたが，各大学の執行部にはまだ理解されていない。

NII・小陳室長より，事務局職員の在籍出向について，特に私立大学からの継続的な派遣を可能とするため，私立大学図書館協会からの支援を検討できるように，連携・協力推進会議等から支援依頼文書を出してほしいとの依頼が私立大学関係者からあった旨の説明があった。

以下の意見交換の後，支援依頼文書を送付すること，名義は事務局に一任することが承認された。

- Ⅰ 支援依頼文書の名義は、どのようにするのが望ましいか。
  - 図書館以外（大学本部等）には、「連携・協力推進会議」ではなく、「国立情報学研究所」や「国公立大学図書館協力委員会」の名義のほうがわかりやすいのではないか。
  - 文書を受け取る側が対応しやすい名義で送れば良いのではないか。

（報告事項）

（３）これからの学術情報システム構築検討委員会の活動について

中央大学・小山教授より、資料３に基づいて報告があり、以下の意見交換があった。

- Ⅰ 電子リソースデータ共有作業部会の活動の Open Letter だが、コンテンツを大量に生産している国（例えば中国）とは連携しないのか？
  - まずは従来、密接に情報交換していたヨーロッパとの連携を考えている。

（４）オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）の活動について

筑波大学・岡部部長より資料４に基づいて報告があった。

（５）SCOAP<sup>3</sup> タスクフォースの活動について

東京大学・細川課長より資料５に基づいて報告があり、以下の意見交換があった。

- Ⅰ 高エネルギー物理学分野のうち約 90% の論文の OA 化が実現するのは相当のものである。
  - 物理学の研究者コミュニティへの働きかけを引き続き行う予定である。
  - この枠組みは図書館あってのものなので、参加意向調査で図書館に参加を呼びかけたい。

（６）国立情報学研究所の最新の動向

NII・小野課長より資料６に基づき報告があり、NII・喜連川委員長より以下の補足発言があった。

- Ⅰ NII-ELS の終了について利用者の方に迷惑をかけてしまったこととお詫びする。CiNii を愛用している方が多くいることを理解できた。コンテンツの電子化公開事業は学協会との人間関係がかなりのウェイトを占めており、デジタル化だけで達成できるものではないことが分かった。

（７）国公立大学図書館協力委員会の最近の動向

筑波大学・岡部部長より資料7に基づき報告があり、以下の意見交換があった。

- Ⅰ GIF のフレームワークの終了に伴い、研究者に影響がでるのではないか。
  - 日米 ILL では日本側から米国側への依頼は特定大学に限られている。特定大学を GIF というボランティアな枠組みで支え続けられない。今後は各大学での対応をお願いしたい。
  - 日韓 ILL については韓国側と詳細を詰め切れていない。
  - GIF というフレームワークは平成 30 年 3 月で一度収束としたい。日韓 ILL を行う場合も GIF ではない新たな枠組みでやっていくことになる。
  - 意義の高い取り組みなので、何等かの形でこのような枠組みは必要だろう。

( 8 ) その他  
特になし。

以 上